



学校だより



9月号

令和7年9月1日
江戸川区立瑞江小学校

「その時」を待ちながら

校長 牧岡 優美子

国連の事務総長が「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰の時代が来た」と発言したのは2年前！今年も猛暑の夏でした。各地で40℃を超え、熱中症警戒アラートは連日発表されました。ですから長い夏休みを終え、無事に学校へ戻ってきた子どもたちを見てほっと安心しました。



夏休み中に、絵本作家の松本春野（まつもとはるの）さんの講演会を聴く機会がありました。松本さんは、絵本作家・画家のいわさきちひろさんのお孫さんで、祖母と同じ絵本作家の道に進みました。

戦後80年の今年、松本さんは『トットちゃんの15つぶのだいず』（原案：黒柳徹子、文：柏葉幸子）という絵本の絵を担当しました。この企画が持ち込まれたとき、海外で紛争が勃発し、人々が逃げ惑う様子が報道されていました。戦争は過去のものではない、子どもたちにも平和の大切さを伝えていきたいと思って引き受けたそうです。この絵本は、

1981年に出版されて全世界で2500万部も読まれている『窓ぎわのトットちゃん』

（著：黒柳徹子）の「トットちゃんのもうひとつのお話」と言われています。『窓ぎわのトットちゃん』の表紙絵には、いわさきちひろさんの絵が選ばれ、今回は孫の自分が挿絵を描くことになったことに、縁と責任を感じたそうです。

さて、松本さんは小学生の頃、本が読めない子どもだったそうです。家の中には沢山の本があり、姉二人は楽しんで読書をするのに、自分だけはなぜか本を読むことができない……。するとお母さんは無理に本を読ませるのではなく「本の内容は映像で観ればいいわよ」と言って、映像化されているものを探してくれたそうです。そのおかげで松本さんは本を嫌いになることもなく、たくさんのお話を知ることができました。そして高校生になったある日、「内容も登場人物も知っている話だから、本が読めるかもしれない」と思って読書に挑戦したところ、みごと1冊読破することができました。とても嬉しくて、その時のことを今でもしっかりと覚えているそうです。そして、本が読めるようになる「その時」を待って、他の方法を見付けてくれたお母さんに心から感謝しているとおっしゃっていました。今では、読書が大好きな絵本作家です。素敵なお話を伺うことができました。

2学期は多くの学校行事、校外活動、「開校105周年お祝い週間」も計画しております。しばらくは厳しい暑さが続きますが、2学期もどうぞよろしく願いいたします。